



JTEKT

JTEKT STINGS

2018 / 2019 Season

## 生まれ変わったV.LEAGUE開幕。 好調な滑り出しも、13勝14敗でフィニッシュ。

### V.LEAGUE DIVISION1 2018-19:レギュラーラウンド

順位	チーム	パナソニック	サンパリス	豊田合成	JTサンダーズ	アローズ	ブレイル	ジェテクト	FC東京	ツバサ	トヨタ	試合数	ポイント	勝	負	勝率	得セット	失セット	セット率
1	BLITZERS		●1-3 ●3-0	●3-0 ●3-1	●3-0 ●1-3	●3-0 ●3-1	●3-0 ●3-0	●3-0 ●3-0	●3-0 ●3-0	●3-1 ●3-0	●3-0 ●3-0	27	68	23	4	0.85	72	24	3.00
2	SUNBIRDS	●3-1 ●0-3		●3-0 ●2-3	●3-2 ●3-2	●1-3 ●0-3	●3-1 ●3-2	●3-1 ●3-1	●3-0 ●3-1	●3-0 ●3-0	●3-0 ●3-0	27	56	19	8	0.70	65	40	1.62
3	ORANGE SPIRITS	●0-3 ●1-3	●1-3 ●3-2		●3-2 ●0-3	●3-1 ●1-3	●3-1 ●3-2	●3-0 ●3-1	●3-0 ●3-0	●3-0 ●3-0	●3-0 ●3-0	27	53	19	8	0.70	62	38	1.63
4	FLAMINGO	●0-3 ●1-3	●2-3 ●2-3	●2-3 ●3-1		●3-0 ●0-3	●3-0 ●1-3	●3-0 ●3-0	●3-0 ●3-1	●3-0 ●3-0	●3-0 ●3-0	27	53	17	10	0.63	62	36	1.72
5	ORANGE SPIRITS	●0-3 ●1-3	●3-1 ●3-0	●3-0 ●3-0	●0-3 ●3-1		●3-1 ●0-3	●3-0 ●3-0	●3-0 ●3-0	●3-0 ●3-1	●3-0 ●3-0	27	49	16	11	0.59	55	41	1.34
6	ORANGE SPIRITS	●1-3 ●0-3	●1-3 ●1-3	●1-3 ●2-3	●3-1 ●0-3	●1-3 ●3-0		●1-3 ●3-0	●3-1 ●3-0	●3-1 ●3-1	●3-0 ●3-0	27	47	15	12	0.56	57	42	1.36
7	JTEKT	●1-3 ●1-3 ●0-3	●1-3 ●1-3 ●1-3	●3-1 ●2-3 ●1-3	●0-3 ●2-3 ●0-3	●3-0 ●3-1 ●3-0	●3-1 ●1-3 ●0-3	●3-0 ●3-2 ●3-1	●3-1 ●2-3 ●3-1	●3-0 ●3-1 ●3-0	●3-0 ●3-1 ●3-0	27	41	13	14	0.48	52	51	1.02
8	ORANGE SPIRITS	●0-3 ●0-3	●1-3 ●1-3	●0-3 ●0-3	●0-3 ●3-1	●3-1 ●0-3	●0-3 ●0-3	●2-3 ●1-3		●3-1 ●3-0	●3-0 ●3-0	27	24	8	19	0.30	32	63	0.51
9	ORANGE SPIRITS	●1-3 ●0-3	●0-3 ●0-3	●0-3 ●0-3	●0-3 ●0-3	●0-3 ●1-3	●1-3 ●1-3	●1-3 ●0-3	●1-3 ●0-3	●0-3 ●0-3	●0-3 ●3-0	27	11	4	23	0.15	22	74	0.30
10	ORANGE SPIRITS	●0-3 ●1-3	●0-3 ●0-3	●0-3 ●0-3	●0-3 ●0-3	●0-3 ●0-3	●0-3 ●0-3	●1-3 ●1-3	●1-3 ●0-3	●1-3 ●0-3	●1-3 ●0-3	27	3	1	26	0.04	8	78	0.10

チーム数が8から10に増え、生まれ変わったV.LEAGUE開幕。ジェテクトSTINGSは高橋慎治監督が新たに就任。外国人枠にブルガリア人のプラトエフ・ヴァレンティン、中国人の秦臻が加わりチームの層が厚くなった。初戦の堺戦は、袴谷がオポジットに入った。プラトエフと対角を組むのはルーキーの郡だ。セッターの久保山が、ミドルブロッカーの廣瀬、福山を積極的に使って得点を重ねていく。さらにリベロの興裕がチームの守備を入めた。しかし、好事魔多し。続くFC東京戦の第2セットに郡が右足首を負傷したのだ。チームを救ったのはキャプテンの浅野だった。郡に代わってコートに入り、攻守にわたって活躍。同じく第2セットの途中から入った西田も攻撃を安定させ、チームを勝利に導いた。1レグは6勝3敗。西田の調子も上がってきて、ウィングブレイクで行われた豊田合戦ではホーム初勝利を奪った。3位をキープするなど、まずまずのスタートと言えるだろう。しかし、2レグに入ると一転、白星が遠ざかる。徳島大会では、大分三好にフルセットで敗れた。大事なところで1点が奪えない。翌週もサントリー、パナソニックに逆転負け。苦しい試合が続く中、それでも光はあった。ミドルブロッカーの秦がチームにフィット。反撃のチャンスはまだ残されていた。ファイナル6進出に向けて、東レ、堺と三つ巴の様相を呈した3レグ、とりわけ重要な一戦になったのが、FC東京とのホームゲームだ。舞台はウィングブレイク。第3セットこそ奪われたものの、チーム全員の力が結集した。プラトエフが攻撃の軸になり、勝負どころで西田にトスが集まった。浅野もキャプテンシーを発揮。金丸のブロックも機能し、セットカウント3-1で競り勝った。しかし、東レ、堺がここから猛追。逆にジェテクトSTINGSは勝点を積み上げることができず、13勝14敗でフィニッシュ。6位の堺にポイント6差をつけられ、7位となりファイナル6進出を逃した。

## 本来の力を出しきれず、 ベスト8という結果に。

### 平成30年度 天皇杯・皇后杯 全日本バレーボール選手権大会

12/15 ★3-0 vs 福山平成大学 **WIN**  
12/16 ●0-3 vs 東レアローズ **LOSE**

初戦の相手は、この年の全日本インカレで準優勝を果たした福山平成大学。ジェテクトSTINGSは立ち上がりから全力で戦った。西田、プラトエフがチームを引っ張りストレート勝ち。相手に流れが傾きそうになっても、最後まで集中力を切らさない。決勝はリリーフサバーの松原を投入。盤石の勝ちパターンに持っていった。しかし、準々決勝は東レにストレート負け。立ち上がりこそリードを奪う場面があったが、つなぎのプレーが機能せず第1セットを失う。続く第2セットは、前半で大きく水をあけられた。第3セットは途中で袴谷を送り込む流れを取り戻せない。大事な場面でミスもあり、16-25の大差で失セット。リーグ戦で連勝している相手だったが、本来の力を出し切れずベスト8で大会を去った。

## グループ戦2位通過、 決勝トーナメントで結果ベスト8。

### 第68回 黒鷲旗 全日本男女選抜バレーボール大会

グループ戦(3戦)  
5/1 ★3-2 vs 大分三好ヴァイセアドラー **WIN**  
5/2 ★3-1 vs 明治大学 **WIN**  
5/3 ●0-3 vs サントリーサンパリス **LOSE**

決勝トーナメント 1回戦敗退  
5/4 ●0-3 vs パナソニックパンサーズ **LOSE**

平成から令和へ時代が変わり、最初の公式戦を迎えた。初戦の相手は、同じVIに所属する大分三好。開幕からタフな一戦となった。日本代表の浅野と西田が不在の中、試合の入り方に苦しみ第1セットを失う。第2セットを取り返したが、第3セットは序盤の失点が響いて失セット。第4セット以降はセッター中根を軸に速攻とバックアタックでリズムをつかみ、フルセットの接戦ももぎ取った。続く明治大学との対戦は、3-1で勝利。ベンチ入りした14人全員がコートに立つなど、チーム一丸となつてつかなだ白星だった。オポジットとして途中から入った清野が活躍。最後は松原のバックアタックで締めくくった。サントリーには0-3で敗れたものの、グループ戦を2位で通過。ルーキーの藤中、小林がコートに立つなど取組もあった。準々決勝はパナソニックと対戦した。この試合でジェテクトSTINGSは見違えるような立ち上がりを見せる。プラトエフが得点を稼ぎ、郡も躍動した。廣瀬もネット際に立ちちはだかった。しかし、第1セットを失うと、流れを取り戻せずストレート負け。ベスト8で大会を終えた。なお、この大会を最後に、チャレンジ時代からチームを引っ張ってきた松原と清野が引退。プラトエフ、秦の退団も発表された。

<p>1 藤中 優斗 アウトサイドヒッター 生年月日 1996/04/20 身長・体重 182cm/78kg 出身地 山口 出身校 早稲田大学 最高到達点 325cm ニックネーム ユウト</p>	<p>2 金丸 晃大 ミドルブロッカー 生年月日 1984/03/04 身長・体重 191cm/74kg 出身地 埼玉 出身校 東海大学 最高到達点 328cm ニックネーム マル</p>	<p>3 渡邊 峻 セッター 生年月日 1994/01/11 身長・体重 193cm/97kg 出身地 長野 出身校 慶応大学 最高到達点 330cm ニックネーム ユン</p>	<p>4 福山 汰一 ミドルブロッカー 生年月日 1993/12/20 身長・体重 193cm/78kg 出身地 熊本 出身校 早稲田大学 最高到達点 335cm ニックネーム タイチ</p>
<p>5 清野 真一 アウトサイドヒッター 生年月日 1998/05/23 身長・体重 186cm/80kg 出身地 愛知県 出身校 東海大学 最高到達点 330cm ニックネーム セイノ</p>	<p>6 プラトエフヴァレンティン アウトサイドヒッター 生年月日 1987/10/21 身長・体重 203cm/92kg 出身地 ブルガリア 出身校 プラトエフ 最高到達点 352cm ニックネーム プラトエフ</p>	<p>7 柳澤 広平 アウトサイドヒッター 生年月日 1998/05/24 身長・体重 188cm/78kg 出身地 長野 出身校 東海大学 最高到達点 325cm ニックネーム コヘ</p>	<p>8 郡 浩也 アウトサイドヒッター 生年月日 1996/02/06 身長・体重 195cm/83kg 出身地 大分 出身校 日本大学 最高到達点 345cm ニックネーム コオリ</p>
<p>9 辰巳 正敏 ミドルブロッカー 生年月日 1988/01/09 身長・体重 189cm/80kg 出身地 静岡県 出身校 中央大学 最高到達点 335cm ニックネーム タツミ</p>	<p>10 松原 広輔 アウトサイドヒッター 生年月日 1985/07/04 身長・体重 180cm/72kg 出身地 静岡県 出身校 慶応大学 最高到達点 335cm ニックネーム マツケン</p>	<p>11 袴谷 亮介 リベロ 生年月日 1988/11/01 身長・体重 192cm/83kg 出身地 東京都 出身校 日本体育大学 最高到達点 325cm ニックネーム ハカマヤ</p>	<p>12 興裕 亮 リベロ 生年月日 1983/08/14 身長・体重 180cm/68kg 出身地 東京都 出身校 慶応大学 最高到達点 330cm ニックネーム ロク</p>
<p>14 西田 有志 オポジット 生年月日 2000/01/30 身長・体重 186cm/82kg 出身地 三重 出身校 海城高校 最高到達点 344cm ニックネーム ユウ</p>	<p>15 中根 聡太 セッター 生年月日 1996/03/02 身長・体重 173cm/68kg 出身地 愛知県 出身校 筑波大学 最高到達点 320cm ニックネーム ソウタ</p>	<p>16 久保山 尚 セッター 生年月日 1992/02/04 身長・体重 178cm/72kg 出身地 福岡 出身校 東海大学 最高到達点 328cm ニックネーム クボヤマ</p>	<p>17 本間 隆太 リベロ 生年月日 1991/10/17 身長・体重 180cm/74kg 出身地 神奈川県 出身校 早稲田大学 最高到達点 330cm ニックネーム ホンマ</p>
<p>18 秦 臻 (シン チェン) ミドルブロッカー 生年月日 1993/02/14 身長・体重 207cm/99kg 出身地 上海 出身校 上海大学 最高到達点 360cm ニックネーム シン</p>	<p>19 浅野 博亮 主将 アウトサイドヒッター 生年月日 1990/10/06 身長・体重 178cm/70kg 出身地 長野 出身校 慶応大学 最高到達点 335cm ニックネーム アサヒ</p>	<p>20 小林 光輝 セッター 生年月日 1996/05/10 身長・体重 173cm/68kg 出身地 長野 出身校 早稲田大学 最高到達点 325cm ニックネーム ミツキ</p>	<p>21 廣瀬 優希 ミドルブロッカー 生年月日 1992/12/13 身長・体重 197cm/98kg 出身地 茨城県 出身校 豊後高校 最高到達点 330cm ニックネーム ヒロキ</p>



<p>部長 郡野 一久</p>	<p>GM 早野 容司</p>	<p>副部長 長井 浩二</p>	<p>副部長 増成 一志</p>	<p>アドバイザー 宮下 和広</p>	<p>チームマネジメントスタッフ 寺嶋 大樹</p>
<p>監督 高橋 慎治</p>	<p>コーチ 若山 智昭</p>	<p>コーチ 阿部 純也</p>	<p>コーチ フェデリコ・ファジャーニ</p>	<p>アシスタントコーチ 細田 寛人</p>	<p>S&amp;Cコーチ 大橋 法晴</p>
<p>トレーナー 小林 正和</p>	<p>アナリスト 池原 賢</p>	<p>マネージャー 江頭 広樹</p>	<p>通訳 石井 純</p>	<p>外部派遣 豊田 昇平</p>	<p>ホームゲームスタッフ 上村 進也 其原 健太 Jリーグ普及・強化育成担当 宗宮 直人</p>